2024 年度活水女子大学入学式　祝辞

院長　湯口　隆司

ご入学おめでとうございます。活水女子大学へのご入学を心から歓迎いたします。

さて 145 年間、活水学院はキリスト教をもとに建学の精神に立ち、その時代にふさわしい内容で女子の教育を実践してきました。職業人としてまた社会に寄与できる女性となるために必要な人材の育成をして参りました。それは専門的な知識の吸収だけでなく、かけがえのないたった一回の人生をどのように考え、そして歩むか、そのための時間と場所を提供する学校でした。前者は「人材の育成」という言葉で表現されますが、後者は「人生の歩みの確信」を育てることです。後者は活水学院の他校と異なる大きな教育の側面です。

その教育の中心が大学の礼拝です。讃美歌を歌い、聖書の一節を外からの牧師や講演者、またクリスチャンの教職員の話を礼拝の中で聞きます。

聖書の中に「人を育てる」ことに関係するイエスの有名なたとえ話があり、ご紹介をいたします。「タラントンのたとえ」(「マタイによる福音書」25 章 14 節から）です。

主人が旅に出かける際に、3 人の僕（しもべ）にそれぞれの力に応じて財産を 5 タラントン、2 タラントン、もう一人には 1 タラントンに分けて僕（しもべ）に預けて旅に出ました。借り受けたお金、今日的には「元金」です。旅から主人が戻ると、5、及び 2 タラントンのお金を預けられた僕はその間に商売をして、それぞれ 10 タラント、4 タラントンと元金の２倍に伸ばしました。一方 1 タラントンを託された僕は土の中に埋めたままにしました。

タラントンはギリシャ語で、重さをはかる単位です。イエスの時代に貨幣の単位となり今日の「タレント」（才能）の語源となりました。それは「それぞれの力に応じてタラントンを分けた」この聖書箇所が語源です。この「それぞれの力に応じて」と言うところがたとえ話の重要な点です。ローマ時代には 1 デナリオンと言う貨幣の単位があり、1 日分の労働賃金と同じ額で 1 タラントンとは 6,000 デナリオンに当たります。 1 タラントンは 6000 日分（約 20 数年間）の給与の総額になります。かなりの大金です。

さて旅からもどった主人は 1 タラントンを土に埋めた僕に対して「怠け者の悪い僕だ。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに」と叱りました。僕は主人を恐れ、損したら大変だと、この大金を地面に埋めたからです。

「タラントンのたとえ」は決して投資信託や債券、新 NISA のようなお金、元金を倍にするすすめの話しではありません。20 数年後に戻った主人には、出発の時から僕たちに期待していたことがありました。それは積極的に与えられた仕事をすることです。このたとえ話は神さまと人間の関係を言っています。人生は神さまから与えられた時間であり、恐れることなく積極的に生きるという大切な使命が人間にはあることを示しています。

皆さんも見えない大金（タラントン、すなわちタレント）を今それぞれが抱えています。大金は預かるだけでも恐怖がつきものです。人生もそうですね。「たとえ話」で主人が「怠け者の悪い僕」と怒った訳は、不安と恐れの気持ちが、主人への信頼よりも大きかったこと、その結果何もしなかったからです。能力に応じて主人は僕に託したにも関わらずです。このたとえ話は「神に信頼して人生を止まらずに歩むこと」を表現していると言えるでしょう。

活水建学の精神は「自立できる女性」の育成です。そして活水学院の教育の土台は礼拝の中にあると申し上げました。

個人事業主という言葉があります。皆さんの事業の支出は多くは保護者が担っていますから完全な個人事業主ではないのですが、大学生になれば個人事業主のスタートでもあると私は思っています。個人事業主は、自由とタラントン（才能)、奉仕の精神を伸ばす責任を背負うことです。その自覚は活水の建学の精神である「自立できる女性」となる上でとても重要です。

皆さんのタラントンを伸ばす精神的土台をこの大学 4 年間で育んでくださるように期待をしています。